

なかった)子が、自分の意志を出せるようになったり、話せる子は、他人を思いやる心が場面々々で出てくるようになりました。また、少人数での共同生活の中で、仲間やスタッフに心を開き、人間関係を結べるようになった子、これらは大きな成果として一定の評価が出来ると思います。しかし反面、塾に適應出来ず、去っていった子供も出てきました。年度末の現在、来年度の「塾のあり方」が見えるように、「子供たちにとって、黄柳野塾はどうだったか」という観点で、一人ひとりのテーマとその到達度の確認をしています。そして、「塾としての役割・使命は何なのか」単なる

精神的な癒しの場になっていなかったか」「自立へのとっかかりをつかむための環境づくりは出来たのか」等々、根本的なところでの問いなおしをしています。

子供たち一人ひとりにとって、本当に意義ある黄柳野塾作りを、多くの方々のお知恵を頂きながらしていきたいと思っています。

黄柳野塾・設楽

愛知県北設楽郡設楽町大字川向字市場口山 2

TEL 05366-5-0303

FAX 06366-5-0388

特集 教育・協同を考える／共につくる会

「人間教育をすすめる学園と共につくる浜松の会」の結成と黄柳野高校

佐々木 忠栄 (静岡県 / 「共につくる浜松の会」事務局長)

「人間教育をすすめる学園を共につくる浜松の会」(以下簡単に、「共浜会」という)の結成と黄柳野高校とのかかわりについて述べていきます。しかし、「共浜会」の誕生は「共につくる会」本部発展の過程から生まれています。そこで、「共につくる会」本部について、手元の資料等を参考にしながら、簡単に説明したいと思います。

黄柳野高校設立準備委員会が1990年4月に発足しますが、それと同時に、「人間教育をすすめる学園を共につくる会」の発足準備も進められ、同年9月には山田正敏先生(愛知県立大教授)を会長として、正式発足しました。

黄柳野高校と「共につくる会」とのかかわりについては、黄柳野高校設立趣意書及び「共につくる会」の会則から明確につかみとることができます。

設立趣意書は、「私たちは、人間の全面発達を

すすめるために、子ども達の持っている多様な可能性・能力をひきだし、心の自由と自立・連帯を育て、情操・自己表現を重視した教育を実現するための学校を多くの皆さんとの協同の力で創ることを決意しました。」と述べているように、協同の力による「人間教育をすすめる学園づくり」が提起されています。一方「共につくる会」の会則には「今、人間教育をすすめる学園づくりがすすめられています。この学園は多くの人々の手によってつくり、親の願い、地域の願い、子ども達の願いを実現できるものにしていきたいと思っています。

そのために「共につくる会」が設立されました。黄柳野高校の設立を教育内容と資金面で支えると同時に、多くの方々と共に教育というものを考え、人間教育をすすめる学園を全国各地に広めていく会です。」と規定しています。

「共につくる会」は、「市民立」黄柳野高校の推進母体として発足したことになります。

「共につくる会」発足当初は、市民の願いを「学校教育」の中にもり込んでいこうということで、教育内容検討委員会を中心に「人間教育」をテーマとした討論がなされてきました。

1992年10月に黄柳野学園設立準備財団設立後は、学校設立資金づくりが、活動の中心に移行されてきました。この運動は、日本では初の試みであり、世界でもあまり例を見ないものとして、実践上では、試行錯誤もありましたが、同年12月の総会では、「100万人でつくる市民立学校」の設立を決議し、全国各地の支部結成へ向けての運動が展開されていきました。その結果、1993年度末では、全国50余支部、約5500名の会員数にまで発展し、50万人をこえる全国の市民からご支援をいただき、「市民立黄柳野高校設立」では大きな役割を果たしました。（1994年には全国の支援は100万人を越える）

「共浜会」の誕生も「共につくる会」のこうした活動の発展の中から生まれてきました。

1992年の夏頃より、黄柳野高校のめざす教育理念への賛同者や関心を寄せた、浜松市内の主婦数名が、教育の現況や、わが子の様子について公民館等を集まり、語り合われていましたが、黄柳野高校設立準備財団が設立されたのを機に、私たちにも何かできることはないだろうか。ということで、ボランティア集団的なものとして動き始めました。きちんとした組織的なものではなく、各自が自分を中心とした活動を主体に、本部の活動の手助けといった活動に終始していました。

それでも、小さな教育こん談会を数回持ったりする中で少しずつ力をつけ、「共につくる会」の会長、山田正敏先生を迎えての教育講演会を設定したり、岡本富士太講演会を中小企業家の方々といっしょになって成功させるまでになってきました。

集会の設営経験など皆無に等しい主婦たちによる活動でしたから、そのための不安と苦労は大変

なものでした。司会者は、何をどのようにしゃべったらよいのかを、一言一句メモしたり、挨拶の文面をみんなで作ったり……。

本部からの支部結成の要請を受けながらも、半年以上もの間、支部結成に踏み切らなかったのは、力不足の他に、黄柳野高校設立後も、きちんとした支部活動が保証されるような会でなくてはならないこと、浜松の会独自の目標を持つこと、どこからも干渉を受けない独立した会にすることなどの必要性を岡本講演から強く感じたからです。

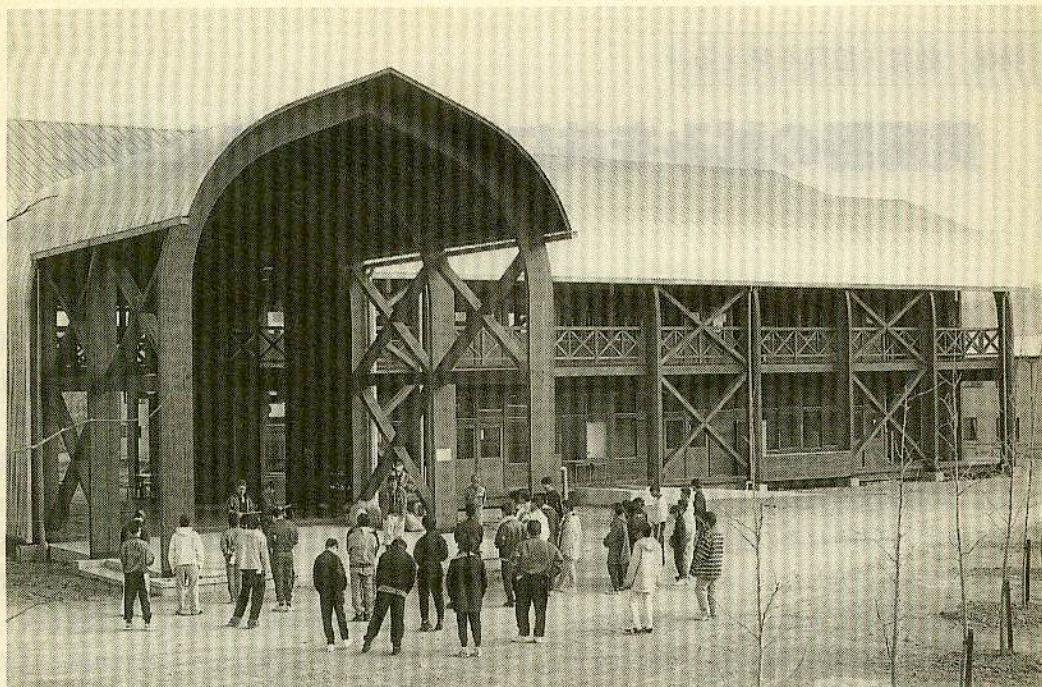
1993年12月11日「共浜会」の結成総会が持たれました。結成の意義・目的等は、「共につくる会」と大差はありませんが、相違点をあえてあげるならば、黄柳野高校づくりは、当面の重要課題としながらも、浜松地区の教育の現状を、「人間教育」の立場からしっかりと、みつめなおしていこうという点を会則にきちんと位置づけた点にあります。

結成にあたっての意義・目的・当日の様子などについては、「共浜会」の代表大山襄（静大工学部教授）氏の、結成総会のあいさつ文が明確に示しておりますので、少し長いですが、全文を紹介します。

12月11日は、寒い一日でした。結成総会の会場にあてられた静大工学部佐鳴会館は火の気ひとつ無く、寒さもひとしおでした。そうした中で、50数名の出席を得て「共につくる浜松の会」を結成できたことを、当日出席できなかった会員の皆さんも含めて、共に喜びたいと思います。

この会に参加された方々は、現在、教育、特に学校教育をめぐる起っているさまざまな問題から、「教育はこのままでよいのか。よい教育とはどんな教育だろうか。」という思いを等しく抱いておられることと思います。しかし、これに対する実効性のある解答を見つけることは容易ではありません。

「人間教育、一人一人の子供を大切にする教育。」を理念とする黄柳野高校設立の運動が今や全国的



黄柳野高校・校舎 撮影：五味明憲

に広がりを見せています。昨年末、私たちもこの運動に加わり募金活動をしてきました。しかし、資金不足のためということで来年(1994)4月の開校は難しい情勢になったことはご存知のことと思います。この高校の目指す新しい教育に大きな期待を寄せていた子供達のことを思うと残念です。今後は、来年3月には何としても校舎を完成させそれを用いて、できる限りの教育実践を開始することが計画されています。開校が1年のびたことを前向きにとらえ、「禍転じて福」となるよう、今後も支援をいっそう強めて行かねばと思います。

「共につくる浜松の会」には、全国各地の運動と連帯しつつも、特に浜松地域の教育について共に考え、人間教育が行われることを目指して、共に運動し、その輪を広げていくという目的があります。

教育はその時々の政治、経済、社会を反映します。学校教育も家庭教育も、時代の支配的な価値観に束縛され、そこから多くの問題が発生していることはわかっていますが、その束縛を解き放つこ

とは容易ではありません。今の教育に心を痛めている人々が共に考え、共に運動をすすめる母体としてこの会が発展するよう力を合せようではありませんか。

「共浜会」結成以後会員の拡大も急速に発展し、組織も確立し、市民運動経験者の支援も受け、会員数も1994年度は、330余名を数え、黄柳野高校設立めざしたすざましいまでの募金活動がまきおこり、1995年4月の開校に大きく貢献しました。

1995年4月の黄柳野高校開校と同時に「共につくる会」は活動も休眠状態にありますが、「共浜会」は、186名の会員と共に、2ヶ月に1回の教育集会を持ち続け、今なお「地域における人間教育」のあり方を追求しています。

100万人の市民でつくる^{っげいの}黄柳野高校
人間教育をすすめる学園を共につくる会

〒442 豊川市駅前通3-7

TEL(05338) 9-5612 FAX(05338) 5-4744